

生きものたちと出会って

Creatures and an Encounter

岩崎行伸

子供の頃からの目標は、生きもの生態研究学者になることであつた。生きもの生物学とは大きく異なるが、生きものとの出会って60年余、その生きもの写真撮って40年以上が無重力に過ぎた。その間、略毎日のように魚・野鳥・蝶・蜻蛉・昆虫等々を見て考えていたから、研究者よりも生きものたちと接する時間はずっと長いわけである。

日頃、生きものの釣りやタモ網掬いし採集そして飼育してはいたではないが、子供の頃からの目標を見た生きもの研究者の生活のイメージは、実際の生きもの目視観察・写真家の生活に近似したものかもしれない。

青壮年時代は、海の年・季節変動と外洋性大型魚のソウダ・カツオ・クロマグロ・キハダマグロ・メバチマグロ・ジンベエザメ・ツムブリ等々や海鳥の行動生態に関し目視観察調査が大好きであり、海をとりまく生きものとそれらの生活環境なくして人生も生活も有り得ないものであつた。

何故、生きものたちですか、とよく訊ねられる。純粹に見て、個々の見方は個人差があるが、種々の生きものの魅惑・美麗ということでは表現できる。

生物の先輩である地球上で最も繁栄・進化し、四億年位という気の遠くなるような長々の歴史がある生きものたちを知らずして、それらの保護や生活環境保全を叫んでも意味が弱い、たいして大口を叩くこともできよう。

還暦そして退官後は、海から陸上の清流・河川・里山等の生きものの採集・飼育・目視観察・種類検索・生態写真撮影記録・編集等々、地道な趣味とし、日頃のストレス解消と子供心に遡って・・・・、



生きものたち-I ; A : トビ (清水)、B : ノスリ (静岡)、C : ダイサギ (静岡)、
D : アオサギ (清水)、E : テナガエビ (清水)、F : ドンコ (清水)

Photo by Y. IWASAKI



G



H



I



J



K



L

生きものたち-II ; G : ハブトトンボ (清水)、H : シオカラトンボ (清水)、
I : クロアゲハ (清水)、J : キアゲハ (清水)、K : コバネイナゴ (清水)、
L : オンブバッタ (清水)、

Photo by Y. IWASAKI

還歴そして退官後は、海から陸上の清流・河川・里山等の生きものの採集・飼育・観察・検索・生態写真撮影記録・編集等々、地道な趣味とし、日頃のストレス解消と子供心に遡って引きこもることなく、フィールドに刺激を求め、身近な生きものである、淡水魚・水棲種・野鳥・蝶・蜻蛉・昆虫たちとの出会いを更に愉しみにしている。

生きものの魅惑の一つには、それらの生活環境生態・色彩・形態等の体全体が、ただ面白いと思っていた分けで、本来は理由なき人見知り性格が、生きものの魅惑に執りつかれ、人生までも変えてくれた生きものたちとその自然環境景観に敬意を表しつつ、次世代へのメッセンジャーになろうと思ったことが主な理由の一つでもある。

生きものに無関心・興味ない人に、興味をもってもらいたいため生きものたちの魅惑・生態写真を添付資料とし、四季折々・自然観察記録として My HP 「光と影と彩の旅へ」を検索され、閲覧・鑑賞くだされば望外の喜びである。

参考図書

- 1) 自然大博物館 (1992) : 小学館、相賀徹夫編集
- 2) 自然観察ハンドブック (1998) : 日本自然保護協会、編監修
- 3) My HP 「光と影と彩の旅へ」 (2006-2012) : google & yahoo.
岩崎行伸編著

添付資料

- 1) 生きものたち-I (A; トビ、B; ノスリ、C; ダイサギ、D; アオサギ、E; テナガエビ、F; ドンコ)
- 2) 生きものたち-II (G; ハグロトンボ、H; シオカラトンボ、I; クロアゲハ、J; キアゲハ、K; コバネイナゴ、L; オンブバッタ)

私が歩いてきた道、会員：自然観察研究会